

「西遊記」で有名な三蔵法師玄奘と、ほぼ同年代の王玄策との比較対照で興味深いのです。玄奘は627（貞観元）年26才の時に唐の長安を出発し、3年余りかかって西域を通りガンダーラから天竺（インド）に入りました。当時の仏教学問の中心地ナーラングで学び、南インドを旅して、645年正月に長安に戻りました。帰路も約3年余かかっております。

一方の王玄策は唐の太宗と高宗との命を受けた公使で、643年に副使として入竺、その後約30年の間に4回（通説は3回）インドに行っております。それも約3ヶ月で洛陽からインドへ行けたのです。

玄奘は3年余、王玄策は3ヶ月と、10分の1以下の時間で行っているのです。「昔は不便だった」とする印象を払拭する話です。